

唐津市立佐志小学校研究主題

思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成

～見通しをもち、自分の思いや考えを表現できる算数科指導方法の工夫～

1 主題設定の理由

本校は、令和5年度から「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」という研究テーマのもと、算数科の研究を進めてきた。これまでの国語科の研究を基盤とし、児童が「考えたい」「学びたい」と思える課題の設定や数学的な活動を工夫し、問題解決に向けた個人思考の場と主体的・協働的に伝え合う活動を充実させてきた。単元計画を児童と立てることで、単元全体に見通しをもって学習に臨んだり、意欲を持続させて粘り強く課題に取り組んだりする姿がみられるようになった。また、思いや考えを伝え合う活動を充実させてきたことで「わからないことがわかった」「考えの違いに気づいた」「自分の考えがかわった」と伝え合う活動の有用性を実感する児童が増えた。

その一方で、交流場面に意欲的に互いの考えを伝え合っているものの、図や式など自分の考えの根拠とするものを明らかにして説明したり、算数的な表現を用いて説明したりすることがに困難さがみられた。課題解決を支える「知識・理解」の観点を定着させたり、導入場面で使えるような既習事項や算数的な表現を児童が想起したりすることができるようにする必要がある。

そこで、今年度は児童が見通しをもち、自分の思いや考えを表現できる算数科の指導方法について研究を進めていきたい。児童が単元の見通しや1単位時間の見通しをもち、解決の手段を自ら選択して表現できる手立てを構築していく。さらに、主体的・協働的な伝え合う活動を通して、互いの考えを知り、認め合いながら数学的活動の楽しさに気付いたり、自らの高まりを実感したりできる児童の育成を目指したい。

2 研究の目標

見通しをもって解決の手段を児童が選択し、表現する活動を通して、児童が互いの考えを知り、認め合い、自らの高まりを実感することができるような算数科指導方法を探る。

3 研究の仮説

算数科の授業実践において、次のような手立てを取れば、見通しをもって解決の手段を選択し、主体的に表現するとともに、考えの良さを認めて高め合うことができる児童の育成ができるであろう。

- (1) 学ぶ意欲を持ち続けることのできる学習課題と数学的活動の工夫
- (2) 個人思考の場と主体的・協働的な伝え合う活動の場の充実
- (3) 振り返りによる学びの自覚化
- (4) 基礎基本の定着

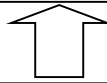
4 研究内容と方法

- (1) 学ぶ意欲を持ち続けることのできる学習課題と数学的活動の工夫
児童が「考えたい、学びたい」と思える課題の設定・単元づくり（ラーニングマウンテン）
- (2) 個人思考の場と主体的・協働的な伝え合う活動の充実
児童が解決する手段を選択し、思いや考えを表現するための手立ての工夫
…学んだことをストックし、活用するための工夫 考えを構築するための手立て
話し合い活動（ひとみタイム）の充実…グループタイムでの話型・思考ツールの見直し
学びを広げ深めるためのコーディネート…「さし人学習」の見直し、ノートと板書の工夫
一人一台端末の効果的な活用
- (3) 振り返りによる学びの自覚化
学びを自覚できる効果的な振り返りのポイントの設定
- (4) 基礎基本の定着
スキルタイムの充実
資料・掲示物等の充実（算数言葉・説明言葉・図等の系統的指導資料作成）

5 年間計画

月	全体会（予定）
5/8（水）	・校内研究① 今年度の校内研究計画提示
6/5（水）	・校内研究② 小中連携（佐志中参観）
7/3（水）	・校内研究③ 指導案形式提案，全校研授業者・日時検討
7月下旬	・校内研究④ 1学期の実践振り返り
8/27（水）	・校内研究⑤ 指導案検討会（学年 G）
9/4（水）	・校内研究⑥ 指導案検討会（学年 G）
10/2（水）	・校内研究⑦ 全校研授業 1
11/6（水）	・校内研究⑧ 全校研授業 2
12/4（水）	・校内研究⑨ 全校研授業 3
12/18（水）	・校内研究⑩ 研究のまとめ提案 次年度の校内研におけるアンケートの実施 児童アンケート考察
1/22（水）	・校内研究⑪ 研究のまとめ作成
2/4（水）	・校内研究⑫ 今年度の成果と課題の確認
3/5（水）	・校内研究⑬ 次年度の校内研の検討

学校教育目標 「自分も他者も大切にするさしっ子の育成」
めざす子どもの姿 「気づき、考え、実行する」子ども



研究主題 「思いや考えを認め合い、高め合う児童の育成」

～見通しをもち、自分の思いや考えを表現できる算数科指導方法の工夫～

研究目標 見通しをもって解決の手段を児童が選択し、表現する活動を通して、児童が互いの考えを知り、認め合い、自らの高まりを実感することができるような算数科指導方法を探る。

【めざす児童像】

見通しをもって課題と向き合い、主体的に交流してよりよい解決方法を見出すとともに、自分や友達の考えの良さを認めて高め合うことができる児童

- ① 単元・本時の見通しをもち、ねばり強く協働的に課題解決に向かおうとする児童
- ② 自分や友達の考えの良さを認め、互いの考えを広げ深めることができる児童
- ③ **数学的な活動**の良さや数学の良さに気付くことができる児童

事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行すること。

【組織】

研究推進委員会（校長、教頭、教務、研究主任、低中高1名、特支1名）

まなび部 加山、藤田、井本、光武、田和、榎、大和、（林田）

【低学年グループ】

藤田、井本、門川
山田、光武、大和、林田

全校研授業者

10月 井本 朱香

【中学年グループ】

前川、田和、前田
加山、尾島、麻生、教頭

全校研授業者

12月 加山 桃子

【高学年グループ】

坂本、鶴田、榎、
本田、田川、池田、校長

全校研授業者

11月 鶴田 梨子